

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 1 No 5

5 号

平成5年10月1日

子供の発達について

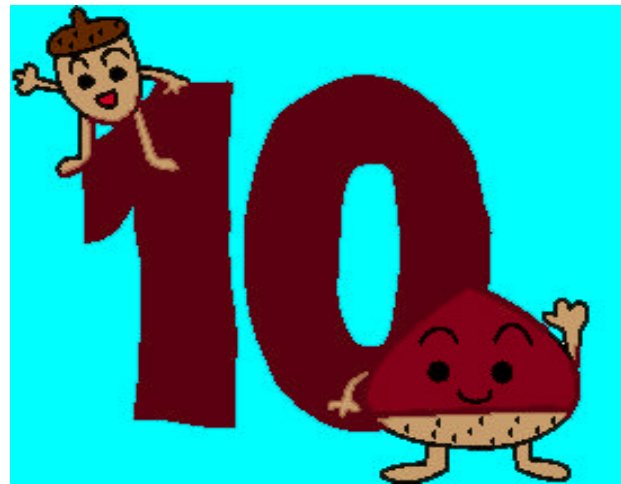
川村 和久

子供の発達について、いろいろなことがわかってきました。子宮内つまり胎児のうちから、感覚器官が働いています。胎児は音も聞こえ、明るさも感じています。生まれたばかりの赤ちゃんも当然、耳が聞こえ、目が見えます。最近の研究では、出産直後からすでに、周囲を認識し、その後の発達には、赤ちゃんを取り巻く環境が、大きく影響すると指摘されています。赤ちゃんは、お母さんを、鏡として見ながら、お母さんの反応を見て、発達していくようです。うつ病のお母さんに育てられた赤ちゃんは、お母さんからの反応が得られないため、発達に遅れが出ることがあります。以上のことから、赤ちゃんの発達を促すためには、おおいに赤ちゃんの相手をする必要があります。

赤ちゃんの発達の目安にはいろいろあります。生まれたばかりの赤ちゃんの脳は未熟で、最初は反射のみで生きています。例えば、口に乳首を入れると吸い付く、大きな音で、両手を抱えるように反応する。この様な反射がちゃんと有るか1ヶ月健診での重要所見です。以後2ヶ月では、笑う、少し目で追う、首が座りかけているなど、4ヶ月では、あやすと笑う、180度目で追う、音の方向がわかる、完全に首が座る、母親を区別するなど、6ヶ月では、寝返る、おもちゃを口に入れる、腹ばいで胸を上げるなど、8ヶ月では、おすわり、手を伸ばしてつかむ、腹ばいでお尻を上げ、動くなど、10ヶ月ではつかまり立ち、つたい歩き、芸をする、はいはいなども大切な所見です。他にも、お母さんと目が合う、周囲に関心を持つ、人見知りをするなども、知的発達の指標として大切です。

発達には、赤ちゃんの知能を表わす尺度となります。赤ちゃんの発達には、お母さんの力がとても大切です。よく話し、よく触ってあげてください。育児疲れのなか大変でしょうが、子供の将来を見つめがばってください。

異常は、早く見つけることが大切です。気になることがあれば、何でも相談してみましょ。また異常の早期発見のためにも、乳児健診は、進んで受けましょ。



乳児に対する栄養指導について

乳児期は、他の時期とちがって哺乳量や離乳食と、お母さんにとっては不安の多い時期です。ましてや、初めてのお子さん場合は、なおさらです。

特に脳の発達等を考えると、一生で一番栄養ということに気を付けないといけない時期でもあります。

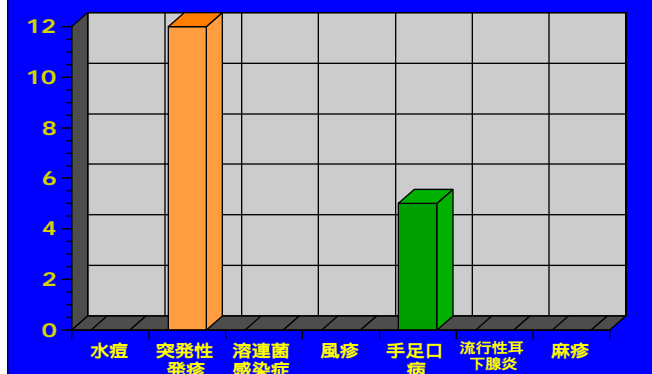
当院では、乳児に対する栄養指導を専属の栄養士により、行っています。栄養上の問題に限らず、育児上の問題についても指導しています。参加ご希望の方、興味をお持ちの方は受付まで、お申し込みください。

毎月第1、3水曜日

参加は無料です。13:30~14:30

9月の伝染性疾患をグラフにしました。流行の種類は、減っていますが、突発性発疹が多く見られました。手足口病は、下火になってきています。

9月の感染症の集計



ポリオ生ワクチンの接種について

来る11月に予定されています。場所および日にちは下記の通りです。該当者は、必ず受けてください。

青葉保健所	5日	小松島中江	これ以外の 地区、および接 種場所は確認し てください。
	10日	北六	
	11日	旭ヶ丘	
	12日	台原	
宮城野保健所	16日	東仙台	
	17日	鶴谷	
	18日	幸町、栢江	

10月のお知らせ

MEMO

栄養育児相談

6日、20日(水)
13:30~
参加無料、栄養士担当

MEMO

予防接種

これから、はしかが流行します。かかると重い病気です。1歳過ぎたら、受けましょ。

医学ママ知識

その5

アトピー性皮膚炎について

外来の患者さんのなかでも、湿疹はよく見られるものの一つです。多くのお母さん達は、マスコミの影響が、アトピー性皮膚炎の心配をしています。アトピー性皮膚炎は、原因や、診断、治療法についても、医学界を含め、ばらばらの状態です。今回、私見も交えて、少しお話しをして見ましょ。

生れたときから、湿疹が見られますが、アトピーでしょうか

アトピー性皮膚炎が、いつから見られるか、はっきりしていません。生れたばかりの赤ちゃんにはアトピー性皮膚炎はないようです。しかし生れてすぐにも、皮膚の変化は見られます。ぶつぶつで少し盛り上がる中毒性紅斑、頭にかさぶたができる脂漏性湿疹、乳児湿疹が有りますが、アトピーと診断することは困難です。

アトピー性皮膚炎のアトピーとは何ですか

アトピーとは、簡単にいえばアレルギーのことです。アレルギーとは何らかのアレルゲン(アレルギーを引き起こす物質)が体内に入り、体のなかで反応(ちょっと難しいですが、アレルゲンと白血球の一種が反応し、化学物質を放出します)を起すことをいいます。前回お話しした喘息や、花粉症も、同様です。

アトピー性皮膚炎と診断されましたが、まぢがないのでしょうか

正直いって、アトピー性皮膚炎の診断は簡単ではありません。典型的な経過をとって頑固なものや、時間とともに変化し、肘や膝の内側に限局するものやアレルギーによって引き起こされていることが確実な場合には、難しくはありません。しかし皮膚が赤くてかゆみを伴う湿疹が、アトピー性皮膚炎かどうかを診断することは困難です。その他、医者側にも責任があり、簡単にアトピー性皮膚炎とつけてしまうこともあるようです。まして皮膚の変化を見ただけで、"何に対するアレルギーがある"言うようなこともあるようです。

お母さんが、客観的に見てアレルゲンが推定できることがあれば、診断は、間違いのないでしょう。心配ならアレルギーの検査を受けることが必要ですが、前回の喘息のときにも書いたように、検査だけでは完全ではありません。

アトピー性皮膚炎の治療にはどんなものがあるのでしょうか

治療の主体となるのは、やはり軟膏療法でしょう。軟膏療法というと、すぐステロイド(ホルモン)剤の問題が出てきます。しかし、漫然と強い薬を広範囲につけなければ、心配ありません。軟膏なしで、治療することは、ほとんど不可能です。かゆみが強くて、日常生活に影響を与えるときには、抗ヒスタミン(かゆみ止め)剤を使います。治療が、思うような効果をあげられないときは、抗アレルギー剤を使ったり、食事制限を行ったりします。最初から、抗アレルギー剤や食事制限をすることはありません。

何を目安に治療を受けたら良いのでしょうか

当院では、皮膚がかさかさして赤くなっているだけでは治療を始めません。お母さん方によくいうのですが、同じものがお母さんの背中にあっても、かゆみがなければ気付かず、治療もしないはず。アトピーの体質は、軟膏や薬では、治りません(時間がたって治ることはありますが)。か

ゆみを止めて、日常生活に、影響を与えないようにすることが大切です。かゆみがあれば、夜もよく眠れず、ものに対する集中心もなく、決していい影響はありません。寝入りばなに、蚊に刺されて寝不足の経験も、持つお母さんもいるはず。そんな思いを子供にさせないことが最も大切です。

食事制限は、どうしたら良いのでしょうか

食事制限を素人判断で行うのは禁物です。小児科内だけでなく、皮膚科の先生でも、未だに、一定の方針というのがないのが現状で、食事制限に対しては賛否両論です。食事制限の根拠を、アレルギーの検査にのみ求めることも正しくはありません。喘息のところでも記述したように、症状がなくても、検査が陽性となることはよくあることです。諸外国でも検査のみで食事制限は、行われていないようです。最も確実なのは、アレルゲンと症状の関係を明確にすることです。特に乳幼児の場合、食物とアトピー性皮膚炎の関係が重要視されています。その場合は、十分に観察することにより、アレルゲンを明らかにできます。

大切な脳が形作られる時期でもあります。重症な例では、栄養に十分な注意を払い、ちゃんとした指導のもとで、食餌療法を行う必要があります。

先生の考えを聞かせてください

アトピー性皮膚炎は、時期が来るまで治らないと考えてください。軟膏をいっぱいつけても、薬をいくら飲んで、食事制限をしても、アレルギーの体質は治りません。かゆみをとってあげることが、最も大切です。正常な精神の発達に、寝不足や、集中心の欠如が良いわけはありません。集中力の低下が、学力にも影響を与えることも充分考えられます。

かゆみをとることの基本は、軟膏療法です。子供にとって、使う薬は少ないほうがよいのは、あたりまえです。効果の充分でない子には、内服薬も必要だろうし、食事制限も必要でしょう。軟膏を怖がるあまり、全身掻き傷だらけでは、いくらのお薬を飲んで、食事制限をしても何のための治療でしょうか。お母さん、そんなに痒くても、自分だったら眠れますか。子供のことを良く考えて見ましょ。

他にはどんな注意が必要ですか

アトピー性皮膚炎を持っている子供は、簡単にいうと皮膚が弱い体質です。汗や、汚れをきっかきに、悪化します。それだけでなく着ているものや肌に触れるものにも充分注意し、清潔を心がけましょ。改善が見られないときには、使っているシャンプーや石鹸にも注意を向けましょ。年齢が小さい時は食物、大きくなると吸入抗原(ハウスダスト)が原因となる割合が高くなります。環境の整備も大切なものの一つです。

軟膏は決められた通りに使い、薬はちゃんと飲むようにましょ。皮膚科の先生に言わせると、治りが悪い原因の一つに軟膏の塗かたが、多いい関係しているとのこと。最後に一つ、ステロイド軟膏を必要以上に怖がらず、効果を理解して使いましょ。

編集後記

何とか、5号目まで、たどり着きました。まだまだだと思っています。少しでも役にたっていればと、自己満足の世界です。

いつも書いていますが、どなたか、何か書いてくれませんか?



目次に戻る

前の号

次の号